

Financial Focus

2009年3月期概要

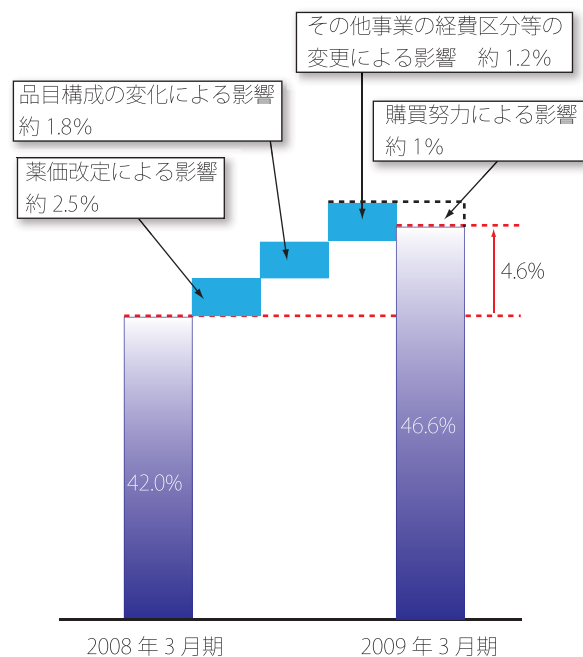
売上高は22,307百万と前期比6.6%の増収となりましたが、営業利益は580百万円と前期比50.4%の減益となりました。これは薬価改定による影響に加え、主力品低迷、ジェネリック医薬品の売上高構成比率が前期比6.9ポイント上昇し、医薬品売上高の60%を超えたこと等により原価率が4.6ポイント増加したためです。

売上原価の上昇要因

2009年3月期の利益圧迫の原因となった原価率上昇ですが、その要因は3つあります。1つは薬価改定の影響です。当社の引き下げ率は平均6%台で、原価率上昇の大きな要因となりました。これにより、原価率が約2.5%上昇しました。加えて、ジェネリック医薬品の売上比率が6.9ポイント上昇したことに伴う品目構成の変化により、原価率が約1.8%上昇しました。3つ目は、当期から「その他事業」の経費計上区分を変更した特殊要因によるものです。これにより、約1.2%の原価率への影響がありました。

以上により、前期比で約5.5%原価率が上昇しましたが、購買努力などによる原価低減努力も実施し、当期の原価率は46.6%（前期比4.6%増）となりました。

2009年3月期 売上原価の上昇要因

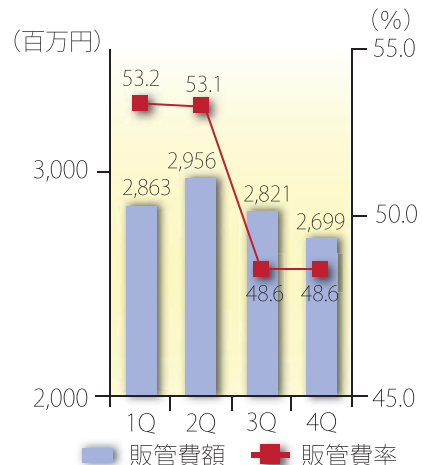


経費の効率化

当社は、2009年3月期において収益改善活動などを通じ経費削減に努めてまいりました。その結果、前期と比較して販管費率は52.4%から50.8%と1.6ポイント下げることができました。

今後も全社を上げて従来以上に効率的な経費使用を実施し、経費の伸びを売上高伸長率の範囲内にとどめていく予定であり、2010年3月期の販管費率は50%を下回る見通しです。

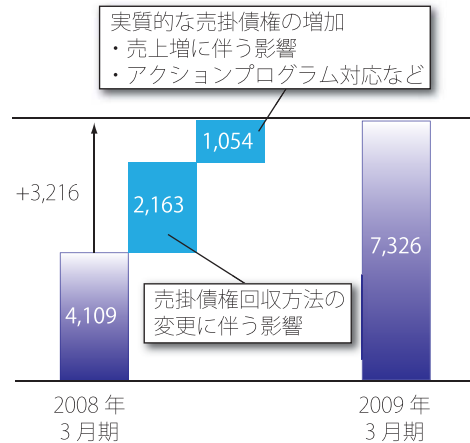
2009年3月期 四半期毎の販管費推移



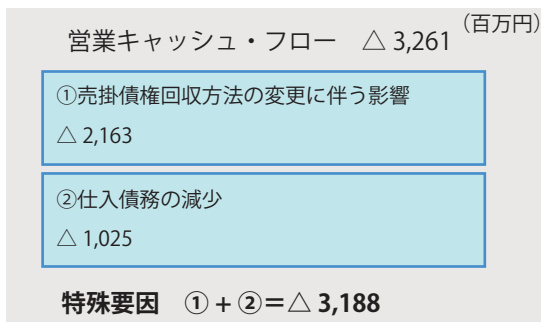
売掛債権の増加について

2009年3月期において、「受取手形および売掛金」が前年同期比32億円増加いたしました。しかしながら、その内21億円は売掛債権回収方法の変更に伴うものです。実質的な売掛金の増加は10億円であり、これは売上高増収に伴うもので、実質的な売上債権の回転月数は4ヶ月と前期と比べても変化はありません。

2009年3月期 受取手形および売掛金の増加について



2009年3月期 営業キャッシュ・フローにおける特殊要因について



営業キャッシュ・フローについて

次に「営業キャッシュ・フロー」ですが、主に2つの特殊要因によってマイナス32億円となりました。1つは、先に記載した売掛債権回収方法の変更に伴う影響、2つ目は、2008年3月期末に計上していたジェネリック医薬品特需対応に伴う買掛金、支払手形などの仕入債務の減少に伴う影響です。今期はこれらの特殊要因がないことから、営業キャッシュ・フローはプラスに転じる予定です。

2010年3月期予想

2010年3月期予想につきましては、売上高は23,600百万円(当期比5.8%増)を見込んでおります。営業利益は750百万円(当期比29.3%増)、経常利益は500百万円(当期比37.7%増)、当期純利益は200百万円(当期比19%増)と利益については二桁の増益を目指しております。

2010年3月期はジェネリック医薬品の売上構成が65%を超え、今後もさらにその比率が上昇する見込みです。従って、継続的に原価低減や固定費の伸びを抑制することによって、2011年3月期以降は着実に利益率も向上していくものと考えています。

医療用医薬品売上高における主力品とジェネリック医薬品構成比の推移

